
通り、雨

柚月華凜舞

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

通り、雨

【Nコード】

N6925A

【作者名】

柚月華凜舞

【あらすじ】

ある人を待ちながら、一人佇む、「人」のお話

（前書き）

詩みたいな感じ？ですが、詩？ではない、と思ってください（笑

雲が空を覆い隠す

それは雨の合図。私はただ一人、待ち合わせをするわけでもなく道路に佇む

傘を持っていない通行人が足早に去っていく

あの日一度だけあったあの人を今か今かと待ちながら、待っている自分がいる

頬、いや、顔に堕ちる雨は冷たく、それは私にはあの人は来ないと言っているようなものに聞こえた

それでも私は淡く期待を沿えながら道路に佇む

店のショウインドウに映った姿はあまりにも情けなく

その姿を自分であざけわらうように口角をあげれば

自分が皮肉めいたように見えた

あまりにも雨は優しく、鋭く

私の心を包み込み

あのコトを忘れると言つかのように

全て流していく

今日も雨は冷たい

私は

何も見えない空を見上げた

そこには薄暗い、灰色の重苦しい雲が見えた

雨は止む気配をみせない

私は馬鹿馬鹿しいと思いながら雨がやんだら会えるかななどと言つて
とを考え、また空を見上げた

いつ帰ろうか

いつまでここにしようか

鞆から携帯をとりだしヘッドホンをつけて軽快なリズムを流す
携帯が濡れても気にせず

私はこの、通行人もいない道路で一人佇み
ずっとあの人を待っている

少し雨の音が雑音となって携帯からながれる音楽をかき消す

私はそれを、雑音をけすかのように
音楽の音量を上げた。

より一層雨が強くなった、気がした。

いつまでここにいるかは気分。

気分次第で

そんな気分が

私の行く、歩く先を決めていく

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6925a/>

通り、雨

2010年12月31日05時25分発行